

令和元年度1月号 [1月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校
川口市東本郷2-20-47番地
TEL 048-281-4065
特別支援学級 285-2423
さわやか相談室 281-4627
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

三度目の正直

校長 安部正幸

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。さて、よく初夢を見ると縁起が良いとされている代表として『一富士、二鷹、三茄子』が挙げられます。私は若い時から野外活動が好きでした。仲間と山の中にテントを張り、火を囲んで歌ったり踊ったり、食事を作ったり。日頃の便利さを忘れた生活に、逆に新鮮さを感じました。その中で山にもたくさん登ってきました。小学生のとき登った磐梯山、安達太良山を皮切りに、北アルプス（白馬岳、杓子岳、唐松岳）、八ヶ岳（北岳、横岳、天狗岳、権現岳、編笠山）、尾瀬（燧岳、至仏山）、蓼科山、妙高山など多くの山頂を踏みしめてきました。しかし、何度か挑戦しながらも、たどり着けない山頂がありました。それが富士山でした。富士山頂を踏むことは、私にとって人生の中での大きな夢でした。

一歩一歩いつか登らん富士の山

富士山頂への初めての挑戦は、大学生の時でした。しかし、5合目まで登ったところで台風の直撃を受け、登山を断念しました。

それから30年以上が経過した6年前、2度目の登山に挑みました。しかし、8合目まで登ると『この先、山頂までは強風のため非常に危険。命の保証はしません。』という掲示板が目に入りました。このとき「生きていればまた来られる。」という気持ちと、「下山したらもう二度と来られない。」という気持ちが交錯して、しばらくそこで考えていました。天気は良好でした。すぐそこに山頂の鳥居が見えていました。しかし、最終的には『勇気をもって下山する』道を選びました。後ろ髪を引かれる思いで下山しました。

そしてその翌年、夢を捨てきれず3度目の挑戦を行いました。登り始めから雨となり、雲の中を登る破目になりました。ふと「今回もだめか。二度あることは三度ある。」という言葉が頭をよぎりました。しかし、しばらく登ると雲の上に出て視界が開けました。その日は無理をせず8合目の山小屋で一泊しました。翌朝、登る御来光を見ながら山頂を目指しました。9合目からの残り400メートルは1時間かかりました。しかし『三度目の正直』、初挑戦から32年目でやっと目的の山頂の土を踏みしめ、夢をかなえることができました。

山登りは人生の縮図

山を登っていると、山登りは人生の縮図のようだと思うことがあります。山頂という目標に向かって進んでいると、「登る」という辛さのほか、様々な判断を迫られることがあります。判断を誤れば遭難の危険もあります。皆さんが進んでいく人生もまた同様ではないでしょうか。そう楽なことばかりではありません。しかし、それを乗り越え山頂に着けば、何らかの成就感が味わえると考えます。それを信じて歩いて行くことが人生の中で重要だと思うのです。令和2年、今年一年が皆さんにとって良い年でありますように。